

## 「精力的な無知ほど怖いものはない」し、「無知が栄えたためしはない」

瓦版134号(5月9日)で橋下教育改革下での「口元チェック」問題を取り上げたが、読者から早速「ツイッター参加型の政治手法の危うさ」と題して、5月8日午後から9日朝にかけての連発されている「橋下ツイッター」から、いくつかの箇所をネットを通じて送ってくれたので、注目される箇所をここにさらに抜き書きしてみる。

○ 陰山委員長、このやり取り見てく下さい。 <http://bit.ly/JbdHmL> via web 教育委員会会議で中原校長の口元チェックは問題ないと教育委員会が確認したことが如何に世間に対して響いていないか。教育委員会は何ら問題ないとしているのにメディアはこれです。 ※5月8日—2:35pm

○ 中原校長の口元チェックの最終責任者は教育委員会です。教育委員会が決定し、方法についても教育委員会が確認した。それを他の校長がやり過ぎだと言っていることをもってMBSはやり過ぎじゃないかと批判に出ています。これ、また教育行政のマネジメントの問題です。 ※5月8日—2:39pm

○ 陰山委員長、教育委員会が中原校長の口元チェックは何ら問題ないと確認したのに、校長がそれは問題だとアンケートに答えることは、これは組織のルールを逸脱していますよ。各校長も批判をするなら中原校長を批判するのではなく、教育委員会を批判しなければならない。府立校長はそのことすら知らない。 ※5月8日—2:41pm

○ 君が代の起立斉唱の職務命令について府立高校校長間で認識を共有できていないようです。中原校長の口元チェックは何ら問題ない。これが教育委員会の決定・確認です。それが組織に浸透していないようです。 ※5月8日—2:46pm

○ 府立高校卒業式での君が代起立斉唱は、1、教育委員会が決定し、全教員に起立斉唱の職務命令を出した2、教育委員が府立高校全校長に対して各校の教員が起立斉唱するよう指導することを通達した3、中原校長は口元チェックを教育委員会事務局に確認して了解を得た ※5月9日—7:47am

○ 批判は構わない。しかし前提事実を歪めるのは報道の自由の逸脱だ。MBSは府立高校の校長にアンケートを採り、40数人の校長が口元チェックはやり過ぎだという回答をしたことを基に中原校長を批判しようとしていた。しかし大本の教育委員会が問題なしとしていることをしっかりと報道してもらわないと ※5月9日—7:51am

○ MBSは教育委員会会議で問題ないとしても一般感覚には合わないのではないかと伝えてきた。それは中原校長の問題ではなく、教育委員会の決定の問題だ。批判の対象が違う。そしてまさに教育行政に一般感覚が反映されていないという問題意識で制定したのが教育基本条例。 ※5月9日—7:53am

○ 教育に政治が入るな！バカな識者はフレーズだけを言う。このように言っていた人達は、教育委員会の決定が一般感覚と異なるとは言えないはずだ。教育委員会の専門的決定が全て。一般感覚とずれていてもそれは専門家の判断だからそれを尊重せよというのが教育への政治関与否定論。 ※5月9日—7:57am

○ だから教育への政治関与を否定する論の人は、一般感覚で教育委員会を否定することはできない。できるとすれば教育論で反論するだけだ。なぜ教育に一定の政治関与が必要なのか。一般感覚を反映させるためだ。ただ今回の府教委の判断は一般感覚として何らの問題もない。 ※5月9日—8:00am

○ 府立高校の校長のアンケートで批判しようとしたMBSボイスは完全に間違い。世論調査が必要。そして前提事実をきっちりと押さえた調査。中原校長が式を乱さない形で3秒間だけ教頭にチェックをさせた。式の後に、歌っていなかったと思われる教員を別室で確認。本人が歌ったと言った者はそれでよし。 ※5月9日—8:03am

○ 本人が歌っていないと認めた者だけ教育委員会に報告。教育委員会からの命令、指導通知、式を乱してはならないこと、教員の思想良心の自由。これらを抜群のバランスを図って確認した中原校長の手法はお見事としか言いようがない。弁護士ならではだ。 ※5月9日—8:05am

○ それを口元チェックはやり過ぎだと言う方が知恵が足りない。それは教育委員会の職務命令・指導通知を単純に無視したに過ぎない。一番頭を使わない楽な方法。おそらく中原校長の口元チェックを

批判した校長は、中原校長の具体的手法までは確認せずに回答したのだろう。※5月9日—8:10am

○ 中原校長のようにギリギリまで知恵を絞り、相対立する価値観のせめぎ合いの隙間を探る努力が必要。ただこの手法の当否についての賛否があることは十分承知しています。しかし教育委員会が何ら問題がないと確認したことも踏まえて欲しい ※5月9日—8:47am

以上の箇所を含む「橋下ツイッター」の抜き書きを送ってくださった読者は、以下の感想も記して下さっている。

① 文面から察すると、MBS 毎日放送「VOICE」という番組での取り上げられ方が気に入らなかったようだが、番組を見ていないと、何を論議しているのかわからない。同様に、ツイッターに批判的な意見をリツイートという形で返している（今回の例では陰山委員長）が、そのやり取りを知らない者には「蚊帳の外」になりかねない。

あるいは、橋下に対する多くの批判の中で、反論できそうなものを橋下は選んでいるようにもみえる。

② 短時間にツイッターを連発している（俗に「橋下マシンガン・ツイッター」と呼ばれているようだ）が、彼は文章を推敲した後で分割して発信しているのではなく、ツイートしながらそのつど頭で考えているのだという。140字という限られた字数で、政治的に重要な内容を吟味せずに一方通行的に発信しているあり方に危惧を覚える。

また、いったん「送信」ボタンをクリックしてしまえば、削除されず永遠にデータとして公開されて残ることになる。修正や訂正がきかないことを自覚するなら、そうたやすく発信できないのが普通の間接的感覚ではないだろうか。（ちなみに陰山は正しくは陰山であって、このことからツイッターの粗雑さ、限界が窺える。）

③ 松井大阪府知事は橋下ツイッターに関して「よほどストレスがたまってるんやな」と語ったことがあった。ストレス発散のためにツイッターされたんでは、見る側はたまったもんじゃない。まして、時には夜0時を過ぎた夜更けにマシンガン・ツイッターがやってくることもある。家人が寝静まった後で一人パソコンに向かっているなんて、わびしい光景ではないか。

④ 自分は一般感覚の代弁者で、他に批判する者は間違っているというスタンスで世論を醸成しようとする手法をとっていて、そのためのツールとしてツイッターを利用しているのが見え見えである。橋下ツイッターのフォロワー（閲覧者）は約72万人だそうだ。国歌斉唱のみならず原発も同じ姿勢（より過激な時もある）だから、ツイッターを追っていると橋下の催眠術にかかったように彼の持論に引っ張られて、いつの間にか肯定してしまう恐れがある。

⑤ 彼は毎日、記者会見を行っているようだが、報道される時には編集・切り貼りされて肝心な部分が伝わっていないと、時折ツイッター内で不満をぶちまけている。そうであれば、記者会見での発言がタテマエであり、ホンネはツイッターで、ということになる可能性がある。だが、面と向かったの対話ではない140字のツイッターで、どこまでホンネが語られるのか。ましてや、推敲を経ない思いつきの「つぶやき」が真の表現とはなりえないだろう。これは<白夜通信>や瓦版を念頭に思うことですが。

⑥ そして、肝心なのは・・・ツイッターをやらない（やれない）人を無意識のうちに追いやって疎外させてしまっている点である。ツイッターをはじめとするSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）がアラブの春や東日本大震災で貢献したりといったプラス面を頭の片隅に置きつつ、やはりツイッターができる者だけによる囲い込みの世界の話ではないか。それを一般常識のごとく取り扱っているように見え、かつ追いやられた人たちを眼中に入れなくなる危険性をどうしても感じてしまう。

読み書きができない人たち、目が見えなく耳が聴けない等の者たちが世界中には多くいる。これらの人たちの存在は日常生活において遠いかもしれないが、ツイッターにのめり込むことで、その人たちの視点を忘れ去ってしまう危険はないだろうか。通信の作業、HPの更新を含めてだが、そのことに常に自覚的でありたい。

以上の感想に加えることはほとんどないが、一言いえば、「口元チェック」のようなことは人間はいかなるときでもしてはならないのである。人間が真の意味で知的存在であるなら、しようすることよりも、絶対にしてはならないことを深く学ばなくてはならない。「精力的な無知ほど怖いものはない」（ゲーテ）という言葉と、「無知が栄えたためしはない」（マルクス）という言葉が、今こそ改めて思い起こされねばならない時代はないのではないか。